

集落元気づくりだより 第2号

1. 瀧春山集落 P1 ~
2. 知之浦集落 P5 ~
3. 阿多地集落 P9 ~

椎葉村瀧春山集落 集落元気づくりだより

平成 21 年 12 月 20 日
第 2 号

第 2 回 集落元気づくりのための寄合い開催される！

平成 21 年 12 月 7 日(月)に瀧集会センターで、第 2 回集落元気づくりのための寄合いを開催しました。

底冷えのする中、瀧集会センターには、集落住民 6 世帯 7 名、周辺集落 1 名の方が集まり、今回も熱心な議論がされました。

第一回寄合いに続き、今回は集落元気づくりの取組として考えられるプロジェクト企画を、テーマ別に 2 グループに分かれて話し合い、集落として取り組むべき「集落元気づくり」の骨格を作り上げました。

集落の現況を見つめ直し、将来を予測する中で、新たに見える集落の問題と課題。その共通認識の中から、世代間の意識差を解消し、お互いのやりたいことを調整する作業はみんなが真剣勝負でした。



寒い夜でしたが、会場には多くの参加者の皆さんが

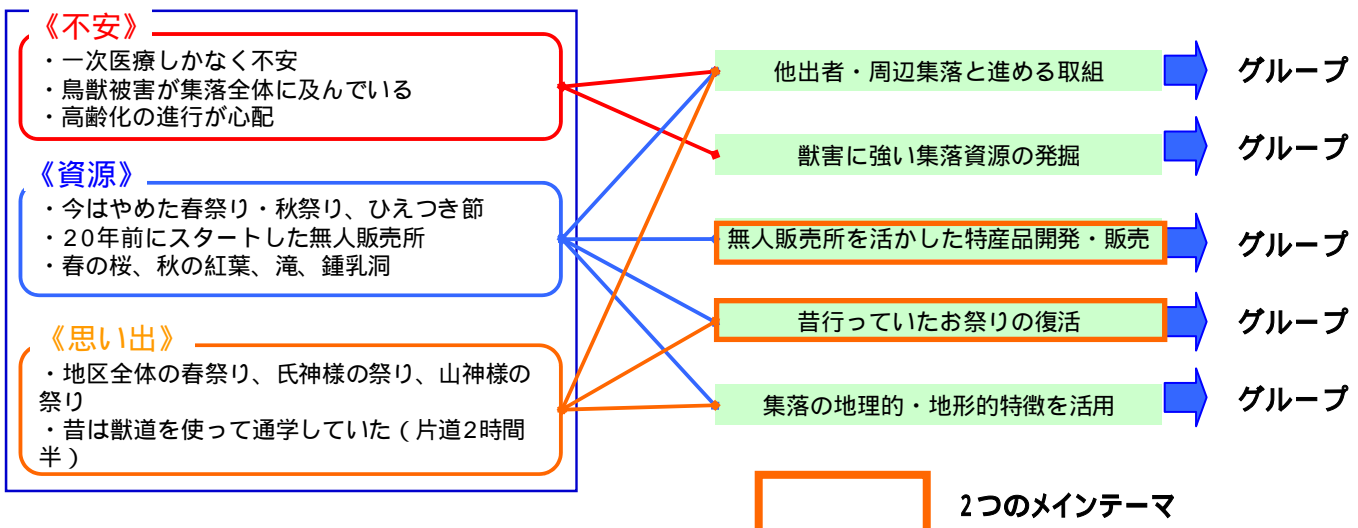
議論されたテーマは「昔行っていた春祭り、秋祭りの復活」、 「無人販売所の活用と地域特産品づくり」

の 2 テーマ！！！！

第一回寄合いにおいて、集落の「不安」と「資源」、「思い出」について議論を行い、議論を通じて見出されたキーワードを分析し、5つのテーマを選び出しました(下図)。その後5つのテーマを、2つのメインテーマと3つのサブテーマに分類しました。

第 1 回寄合いからのキーワード

キーワードより選び出された5つのテーマ



テーマ 「的の狙いは人のつながり」

以前の瀧春山集落の祭りは、集落各世帯が持ち回りでの射を行うなど、集落の大人も子供も楽しめる行事でした。また、瀧春山集落は芸達者な人が多く、即興で歌や踊りに興じるなど、祭を盛りあげていました。しかし、6年前から集落では行事が行われなくなり、後継者世代も近隣の集落に移り住むなど、祭の継承が困難な状況になっています。

グループでは、集落の継続と活性化のために、昔行っていた春祭りや秋祭りを復活できないか、また、祭の開催を通じて周辺集落と連携し、地域全体としての活性化が図れないかという点を中心に話し合いを進めていきました。

まず一同は、「的射は終わった後の宴会も楽しかった」、「的射は縁起もので、春祭りやふちあげ（年明け）に行った」、「集落に子どもがいたころは、2月14日にもぐら打ちがおこなわれ、各家に子どもたちが来て、地面をたたくのを見るのがほほえましかった」等、昔の祭りの思い出話で盛り上がりました。

そして、もう一度祭りを開催するためにどうしたらよいかと、「的射」と「もぐら打ち」に焦点を絞り、開催のための方策を皆さんで考えました。



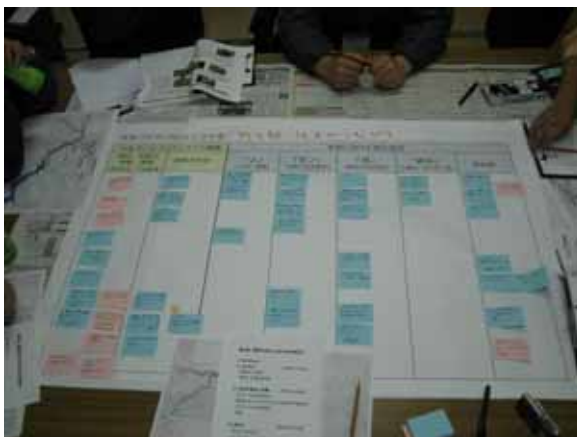
的射の思い出話に熱が入り、思わず身ぶり手ぶりで



考え込む右田さんと見守る北園先生



的射の楽しみはやっぱり終わってからの宴会と久さん



話し合いの成果は全てこの中に集約されています

「的射は各家で行うのではなく、各集会所でそれぞれ持ち回りで開催すれば良い」、「的射の最大の楽しみである宴会も、昔のように各家がもてなすのではなく、皆で集会所に食材を持ち込めば、各家の負担が少なくなり開催しやすい」、「飲んで帰れば飲酒運転になるが、集会所で寝て帰れば摘発されることもない」と、的射の再開には一同が段取りを思いつき、明日にも再開できそうな雰囲気になりあふれました。

もぐら打ちの再開を検討すると、「主役となる子どもが瀧春山集落にはほとんどいない」、「最近の子供は部活動などで忙しい」等の再開にあたっての問題点が見いだされました。

問題点解決に向けて、「他集落の子どもが瀧春山集落にきてくれれば子どもの声が聞けるだけでもうれしい」、「日付はずらせないが時間はずらせるので、子どものスケジュールに合わせられる」という意見が出て、最後には松木・横野集落にお願いして子ども達に来てもらい、尾八重地区全体でもぐら打ちの再開に取り組んでいくと良いのでは、という取組となりました。

テーマ 「瀧のしずくで集落づくり」

瀧春山集落には 20 年も続いた無人販売所があり、家庭で生産される野菜や山菜を、直接あるいは加工して年間を通じて販売し、集落の高齢者の楽しみの一つとなっていますが、「集落人口が減少していく中で無人販売所を今後どのように維持していくか」という課題を抱えています。

そこで、無人販売所の継続による集落活性化のために、今までとは異なる視点から無人販売所の運営方法と集落の資源を見直し、新たな無人販売所の在り方と、無人販売所で販売できる集落特産品の発掘を試みました。

しかし、無人販売所の運営方法を現在と異なる形にするには困難があることがわかり、現在販売されている商品の他に、100 円で販売できる集落特産品はほとんどないことも判明しました。

その後、多くの課題が生じ、議論が行き詰まりかけた時、話し合いの進行役より宗像市地島で現在行われているやぶ椿を活かした特産品づくりの事例が紹介されました。今までだれも集落の特産品だとは思っていなかった山に自生する“やぶ椿”が、集落の新しい特産品になるのではと話がはずみます。“やぶ椿”は

- 「野菜や林産物と異なり鳥獣被害がない」
- 「花の蜜は集落特産品であるミツバチの蜂蜜の元」
- 「絞り油は多用途に使えるため販売できる」
- 「油を絞った後の絞り粕は高級肥料となる」



瀧春山集落の 20 年続く無人販売所



話に頷かれるシズ子さんと直義さん



討議の成果をプロジェクトシートにまとめます



発言内容に照れるマサエさん

という特徴を持ち、特産品として好条件を備えています。また、花は景観を彩り、新しい観光名所をつくることも出来ます。

一同はこのような“やぶ椿”の特徴に納得し、“やぶ椿”を新たな地域特産品とするプロジェクトの方向性が固まりました。

その後、話し合いは“やぶ椿”の自生場所と移植技術を持つ人の確認や、景観植物とするための植樹場所の検討、椿油を採取できる加工所の心当たり、種子の簡単な採取方法等、実際に“やぶ椿”を特産品とするための方法について討議が進み、その成果をプロジェクトシートにまとめることが出来ました。

こうして、話し合いが進むにつれ、集落の継続と活性化のためには、無人販売所の継続にこだわらず、集落の自前資金をねん出できる集落活動に取り組む必要があるのではないだろうかという意見が出されました。

この意見を検討した結果、瀧春山集落が有する山林、清流から新たな集落資源を発掘し、地域特産品として集落外に販売できれば集落の自前資金が確保でき、集落の継続と活性化を図れ、無人販売所も維持できるのではないかと同時に一同が合意しました。

寄合いに参加した私の感想

寄合いに参加された皆さんの感想と、私がやってもよい取組として挙げられた意見を紹介いたします。

代表的な感想

- ・ これからどうするものかと思う事が多々ありましたが、道筋・明かりを見つけた気持ちで嬉しく思いました。
- ・ 集落で一番身近な問題でよかった。集落の将来について皆が心配していることが理解できた。
- ・ 明かりと光を見出したと思い、気づかせてもらいました。前回、今回の話し合いは心に残りました。これからの仕事の合間に思い出して元気を出します。
- ・ やはり昔の話になると、話が尽きず盛り上がった。
- ・ 気安く話しが出来、話す事により、人の輪が作れた。



椿が植えられて彩られる日も近い？

この取組なら私がやります！！

《椿油加工》

加工、販売を通じて他出者や地区外の人との交流が出来るのでとても楽しみです。植え付けや管理に取り組みたいと思います。

《的射》

伝統芸能は、集落の元気のもとであり、話がまとまりやすいと思います。祭りが復活すれば、昔を思い出して準備をします。

熊本大学 北園先生の講評

北園芳人先生は熊本大学で、まちづくりや地域防災などの分野を研究されており、自主防災組織や危機管理のための取組を各地で指導されておられます。先生の寄合い後の講評です。

皆さんが、一生懸命に時間が足りないというくらい話されているのをお聞きすると、集落に対する色々な思いがあって、話し出したら止まらないのだなと強く感じました。

今日、色々なプロジェクトのアイデアが話し合われましたが、この結果をいかに実現し、次の世代の人に伝えて行くかということが今後重要になってきます。

例えば、もぐら打ちをお爺さんお婆さんからお孫さんの方まで 3 世代が参加できる祭りとして再興できれば、世代が交代しても新しい世代が順繰りに参加していけるので、祭りを継続していけます。

また、今日も集落づくりについて色々な話が出ましたけれど、やはり基本は人と人の繋がりこそが集落を盛り上げていくということです。

これからは、今日ここで話し合った内容を出発点に、集落内外に新しい形での 20 年 30 年に渡る人と人の繋がりを築き、子供さんたちやお孫さん達に楽しみを与えられる、集落づくりを進めていきたいと思いました。



寄合い終了後に講評される北園先生

瀬戸内町知之浦集落 集落元気づくりだより

平成 21 年 12 月 20 日
第 2 号

第 2 回 集落元気づくりのための寄合い開催される！

平成 21 年 12 月 12 日（土）に知之浦集会センターで、第 2 回集落元気づくりのための寄合いを開催しました。

知之浦集会センターには、集落住民 5 世帯 6 名、他出者 5 名、周辺集落 1 名の方が集まり、今回も熱心な議論がされました。

第一回寄合いに続き、今回は集落元気づくりの取組として考えられるプロジェクト企画を、テーマ別に 2 グループに分かれて話し合い、集落として取り組むべき「集落元気づくり」の骨格を作り上げました。

集落の現況を見つめ直し、将来を予測する中で、新たに見える集落の問題と課題。その共通認識の中から、世代間の意識差を解消し、お互いのやりたいことを調整する作業はみんなが真剣勝負でした。



周辺集落である三浦集落や古仁屋から大勢のかたが寄合いに参加

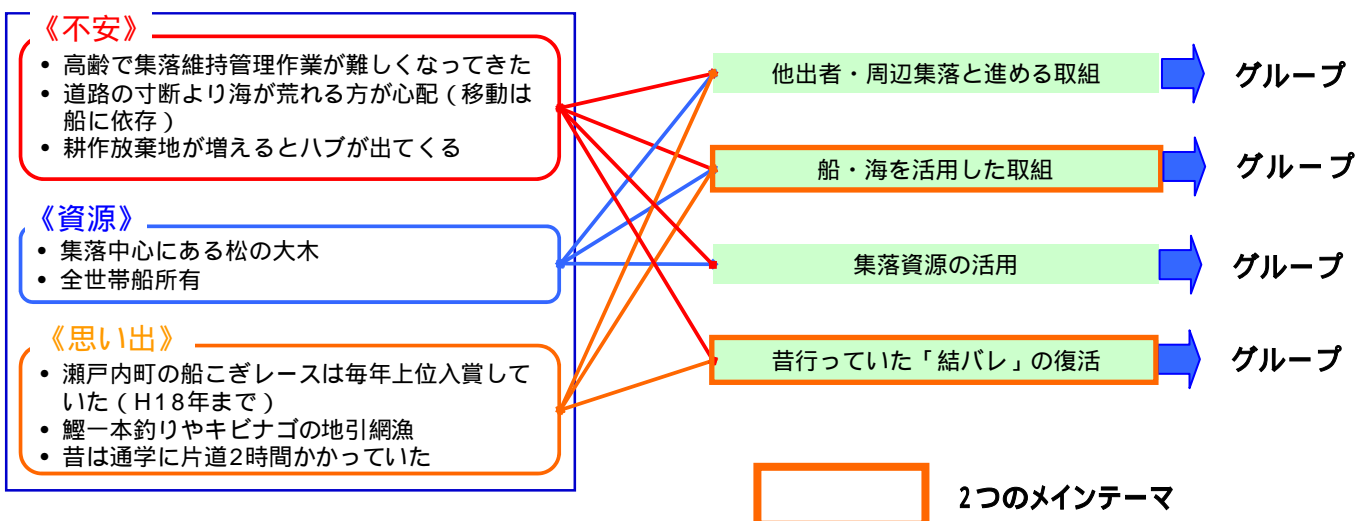
議論されたテーマは

「海を活かしたイベントの復活」、
「他出者支援による集落維持活動」の 2 テーマ！！！！

第一回寄合いにおいて、集落の「不安」と「資源」、「思い出」について議論を行い、議論を通じて見出されたキーワードを分析し、4 つのテーマを選び出しました(下図)。その後 4 つのテーマを、2 つのメインテーマと 2 つのサブテーマに分類しました。

第 1 回寄合いからのキーワード

キーワードより選び出された 5 つのテーマ



テーマ 「みんなの応援でこぎつづけよう 知之浦号」

知之浦では、後継者世帯が古仁屋などの中心集落への転出が進み、人口が減少しています。他出者が増えるに従って、集落の協働的な取組が徐々に行われなくなってきています。

こうしたことから、定期的な集落の取組を他出者や周辺集落と一緒に進められないだろうか、また、他出者や周辺集落と一緒に楽しく取り組める行事は無いだろうか、他出者や周辺集落との協力状況を確認しながら、今後の取組について検討していきました。

まず、現在、集落住民と他出者や周辺集落との連携について、「他出者や周辺集落の人に集落へ来てほしいが、どうしても遠慮してしまう」との住民側の意見があり、それに対して、「他出者側では声を掛けてくれれば是非来たいと思っている」、「知之浦集落と三浦集落で一緒に取り組みたい」と、お互いの意思や考えがはっきりと確認されました。

そして、集落全体で参加している行事の「豊年祭」はどうだろうか？との話題になりました。ただ、三浦集落では違う日に豊年祭が開催されるため、合同での開催は出来ないことになりましたが、昔のように招待し合ってはどうか、などと話が盛り上がりました。



豊年祭の話が盛り上がる瀬川さんと伊地知さん



船こぎレースの話題で笑顔の山田さん



みなと祭りへの参加を検討する皆さん

	「人」	「モ」	「残」	「豊」	その他
...
...
...
...
...

討議の成果をプロジェクトシートにまとめます

その他にも出来ることはないだろうか？と話が進む中で、3年前から不参加となっている「みなと祭り」へもう一度参加してみよう、という意見が出ました。「みなと祭」は古仁屋で行われるお祭りで、そこで開催される船こぎレースで、知之浦チームは常に優勝することで有名でした。実際の所、「ここ3年参加しなくなって、みなと祭が少し盛り下がった」との声が聞かれるほどです。

古仁屋在住の知之浦会と集落住民で参加していた頃は、船こぎの練習を集落前の海で週2～3回のペースで行っていました。

「船こぎの練習は日程を決めればほとんど集まる」

「大会の応援も、声を掛ければ大勢が来る」

「大会では他出者へ集落のニュースを伝えよう」と、次々に意見が出され、参加への意欲が高まりました。

こうして、集落での取組の手始めに、「大会参加のための船こぎの練習をしよう」と決まりました。

他出者や三浦集落でも、応援に駆けつけることが話し合われ、「他出者が応援に来てくれたら宿泊は集会所で出来るし、若い人は徹夜で騒ぐから宿泊は問題なし」、「誰かしらの家で寝てしまっても大丈夫」と無茶なことを言い出す人も。

また、「古仁屋在住知之浦会」の他に、関西在住の他出者の集まりである「三浦・知之浦会」も紹介され、他出第2世代でも知之浦に戻りたい人がいることも明らかになりました。

テーマ 「楽しみながら、子どもも一緒にお手伝い」 ～ 知之浦・愛着づくりへ～

知之浦では高齢化が進み、定期的に行う集落道路の草払いや河川清掃が困難な状況となっています。また近年では、不在地主が増え、耕作放棄地が増えたため、ハブが発生する等の問題も生じています。

こうしたことから、定期的な集落維持活動を他出者や周辺集落と一緒に行えないだろうか、また、他出者や周辺集落と一緒に楽しく取り組める行事は無いだろうか、と、他出者や周辺集落との協力状況を確認しながら、今後の集落維持活動と行事について検討しました。

「わざわざ集落維持活動へ来てもらうのは忍びない」と集落住民の意見が出ると、「自分たちの出身集落なので要請があればなるべく応えたい」と古仁屋郷友会の武田さん。そこで、話し合いに参加していた三浦集落の早川さんが、他出者と住民が協働で集落維持活動に取り組んでいる三浦集落の取組を紹介。古仁屋からの交通手段の確保やお礼のお弁当等を手配していることを教えてもらいました。しかしながら、三浦集落では、作業への子供の参加はなく、活動の継続性において問題があるとのことでした。

そこで、他出した世帯の子供も含めた支援は出来ないだろうかと同知恵を絞ります。



集落維持活動を楽しみながら行うための真剣な議論



身を乗り出して説明する三浦集落の早川さん



ディゴは花が咲くから良いと古仁屋在住の武田さん



潮干狩りで振る舞った「かし餅」について懐かしむ山田さん(写真右)

知之浦で楽しかった「思い出」、それは旧暦3月の節句に行う「潮干狩り」があり、この時は、子供達に「かし餅(ヨモギ餅)」を振る舞い、終日海遊びをしたそうです。

毎年6月の美化月間に瀬戸内町の要請で行う集落内河川清掃。この清掃を「潮干狩り」の時期に早めて行えないのか？参加者の視線は役場から参加した企画課の渡辺さんに向けられます。

清掃日を早めて良いかどうかは結論が出ませんが、住民も他出者も大人から子供まで、楽しみながら河川清掃を行う日として「潮干狩り」に合わせようとの結論に至りました。

最後に、新たな取組として、集落のシンボリック存在であった樹齢200年の松が枯れたのが残念なので、「子どもによる植樹作業」という提案がされました。

ガジュマルには妖精が住み着くからダメだという人もいれば、おはらいすれば良いとの意見もあり、なかなか植える木が決まりませんでした。子どもたちが植える木が、将来は集落のシンボルとして育ち、集落もまた同じように長い歴史を重ねられるようにという希望を込めてプロジェクトが実施されることを期待しております。



話し合いの成果は全てこの中に集約されています

寄合いに参加した私の感想

寄合いに参加された皆さんの感想と、私がやってもよい取組として挙げられた意見を紹介いたします。

代表的な感想

- ・ 皆さんの意見を聞きながら、すぐにでも実行に移せそうな話ばかりで参考になり、分かりやすく今後にもいかせそうに思いました。
- ・ みんなで話し合えて良かった。
- ・ 集落のみんなが松に対する意識の強さを共有できて良かった。みんなが選んだ木を植付けたい。
- ・ 今まで集落からの要請がなかったが、これからは要請があれば他出者として積極的に支援していきたい。
- ・ 今からこの集落が良くなるように考えたい。木のことはよく考えたい。



枯れてしまい植え替えが話題となった
集落中心の松の大木

この取組なら私がやります!!!

《木の植樹》

松はいつまでもつか分からないので、すぐにでも何かしたい。今まで集落のシンボルだった山がはげ山になるのがさびしく、集落のシンボルは気持ちを高める。協働作業、他出者を集めます。

《みんなでこぎ続けよう知之浦号》

出来るだけ多くのイベント等に時間の許す限り参加したいと思います。

応援する人も、船をこぐ人も知之浦集落という船を前に進めるために協力していく。

集落の話し合いへ参加し、行政の立場で協力します。

鹿児島大学 山田先生の講評

山田誠先生は鹿児島大学で、地域総合政策の分野を研究されており、奄美大島でサテライト教室を開講するなど、地域振興プロジェクトを各地で指導されております。先生の寄合い後の講評です。

前回の話をさせていただいたときに、この集落は寄合いに非常に大勢の方がお集まりになって勢いがあると感じました。今回も来させていただいて、私が見たところ三つ成果があるのでは、と思いました。

一つ目は、前回の寄合いの勢いが基礎にあると思いますが、ここの集落の取組は進んでいて、レベルの高い高度な取組をしています。集落を元気にすることなので、地元の方が一番中心になることは当然のことですが、そこにお隣の集落の方も一緒になって考えている、ということはよその集落では珍しい話なのです。また、地元の人が外に出られた方と協力して何かをすることもあまりないことです。

二つ目は、子どもと一緒に楽しむという意見があったのが嬉しく思いました。私も孫がいる世代ですから、遠くから人が来てくれるのも元気が出ますが、若い人や子どもがいると非常に元気になれる。

三つ目は、集落中心の松の大木が枯れてしまったことがすぐに話題になって、植樹について考えようということです。この寄合いの話がきっかけとなり地元の方が話されて、他出の方の同意を得て、皆さんが良いね、という結論に至るには時間がかかるかもしれませんが、もし今日から始めるということになれば嬉しく思いますし、皆さんの会議に参加できたことを誇りに思います。これから大変だろうと思いますが、頑張ってください。



寄合い終了後に講評される山田先生

瀬戸内町阿多地集落 集落元気づくりだより

平成 21 年 12 月 20 日
第 2 号

第 2 回 集落元気づくりのための寄合い開催される！

平成 21 年 12 月 13 日（日）に阿多地林業研修集会所で、第 2 回集落元気づくりのための寄合いを開催しました。

阿多地林業研修集会所には、集落住民 4 世帯 5 名、他出者 3 名の方が集まり、今回も熱心な議論がされました。

第一回寄合いに続き、今回は集落元気づくりの取組として考えられるプロジェクト企画を、テーマ別に 2 グループに分かれて話し合い、集落として取り組むべき「集落元気づくり」の骨格を作り上げました。

集落の現況を見つめ直し、将来を予測する中で、新たに見える集落の問題と課題。その共通認識の中から、世代間の意識差を解消し、お互いのやりたいことを調整する作業はみんなが真剣勝負でした。



寄合いに参加された阿多地集落の皆さん

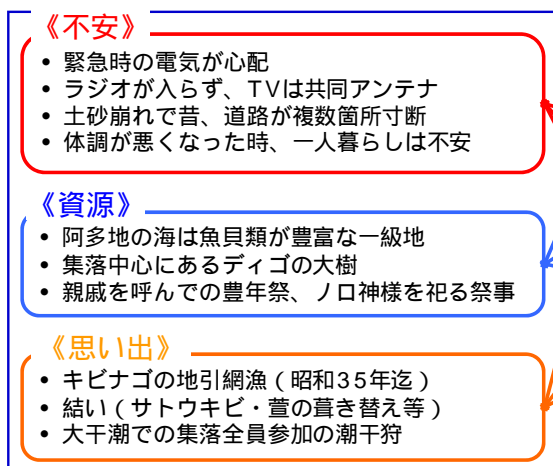
議論されたテーマは

「阿多地の海・海浜を活かした短期滞在プログラム」、
「阿多地の人が集まりたくなる場所の整備」

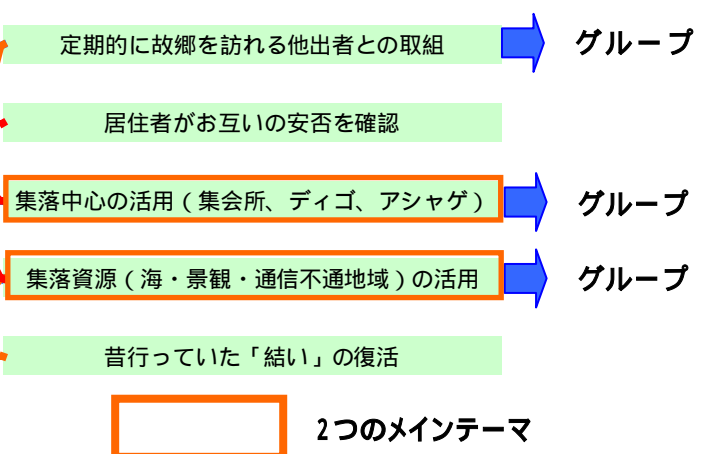
の 2 テーマ！！！！

第一回寄合いにおいて、集落の「不安」と「資源」、「思い出」について議論を行い、議論を通じて見出されたキーワードを分析し、5 つのテーマを選び出しました(下図)。その後 5 つのテーマを、2 つのメインテーマと 3 つのサブテーマに分類しました。

第 1 回寄合いからのキーワード



キーワードより選び出された5つのテーマ



テーマ 「きゅら浜阿多地楽しみ会」

以前の阿多地の海は遠浅で、アワビ、サザエやムール貝等の貝類が豊富に取れていました。しかし、現在は海に入る人はおらず、集落と海とのつながりはなくなりつつあります。ただ、夏になると他出された家族が、海水浴を楽しむために集落を訪れ、集会所や空き家を一時的に借りて滞在しているそうです。

そこで、加計呂麻で一番美しいと言われるこの海を活用した集落活性化の取組を中心に話し合いを進めていきました。

阿多地集落前の海は広いリーフがあり、昔は名瀬市や古仁屋などからも人が来る程、潮干狩りが盛んに行われていました。思い出話では、「潮干狩りは5月の連休頃の時期が一番良くて、家族で出かけた」、「5月の大潮は昼だが12月の大潮は夜なので、いざり漁を行った」、「タコで遊んでいた」などと、海に関する皆さんの思い出話は尽きませんでした。

このような楽しい思い出と、夏場に定期的に訪れ、海で遊ぶ他出家族も一緒に参加でき、海を利用した集落の活性化に向けた取組はないだろうか？と考えていきました。

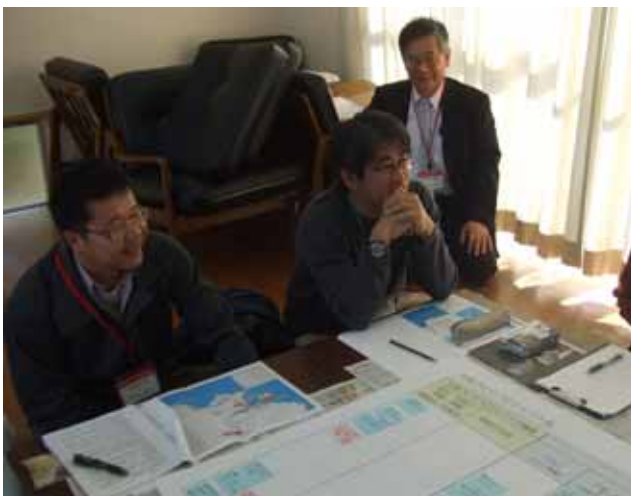
しかし、問題になったのが、果たして他出した人が、そんなに定期的に集落を訪れてくれるだろうかとの不安でした。



笑顔で思い出話をして下さるキクエさんとスエ子さん



思わず考えこむ区長の永井さん



他出2世代の泉さんと長さんから沢山の意見が出ました



話し合いの成果は全てこの中に集約されています 10

そんな中、古仁屋在住で阿多地出身者の集まりである郷友会に所属する泉さんが、集落来訪者の視点から「大人も子どもも楽しめる取組だと他出者も集まりやすいのではないかと提案。更に区長の永井さんが「豊年祭のように帰ってくるきっかけとなる取組が良い」と、住民・他出者双方の考えを伝え合いました。

こうして、話し合いが進むにつれ、他出者も集落に住んでいる人も全員が楽しめる取組として、潮干狩りを取組の中心にすえ、大勢が集まるのなら、河川清掃も一緒に行おう、とのプロジェクトがまとまりました。

話し合いによりお互いの親密さは増し、「開催の連絡は、瀬戸内町役場の阿多地郷友会の青年部が中心になってはどうか」との連絡調整方法についても話し合われた他、「現在では寸志となっている集会所の利用料金を定額にして集落活動費にする」ことや、「集会所前にテントを張って、集落の備品であるバーベキューセットでもてなそう」などと具体的な提案も飛び出しました。

集会所利用料の具体的な金額までは決まりませんでしたでしたが、今後他出者の人も含めて、引き続き検討していくことになりました。

テーマ 「内も外も、みんなが顔を合わせるプロジェクト」

阿多地集落の中心には「あしやげ」や大きなディゴの木があり、集落のシンボルとなっています。また、ここはバス停があり、移動販売車も止まり、集落の人々が生活する上で自然に訪れる場所となっています。

一方集落では、住民の高齢化や、一人暮らしが増え、健康や買物、災害等生活における不安が増えています。

そこで、集落に暮らす人々が、日々の生活の中で、お互いの安否が確認できる仕組み作りが出来ないものかと話し合いを実施しました。

まず手始めに、集落の実態把握のため、高齢者単独世帯、移動販売車利用世帯、皆さんの外出手段などを地図に記入し、確認しました。その結果、高齢者または1人暮らしは6世帯もあり、自家用車がないため週に1回バスを利用する世帯が3世帯、移動販売も6世帯が利用されていることがわかりました。

一方、古仁屋在住の喜島さんにうかがうと、他出者の帰省は、古仁屋からのフェリーと島内バスの乗り継ぎであり、日帰りだと集落内に4時間しか滞在できず、集落の人とゆっくり話をする時間が取れないとの悩みもわかりました。

現在の状況を確認しながら、お互い顔を良く合わせていた昔のことを思い出すと、集落総出で楽しんだ「夕涼み」や「ゲートボール」等の思い出話に花が咲き、さらには、「そういえばウミガメも来ていたなあ」との発言に、思わず和んだ雰囲気になりました。



話が盛り上がるクニ子さんと迺子さん



他出者の喜島さんは集落地図の作成に大活躍



みなさんの意見をもとに集落の地図を作成



話し合いの成果は全てこの中に集約されています

話が進む中で、お互いが顔を合わせることの大切さを参加者一同が感じるようになり、現集会所を利用して、住んでいる人も訪れる人もみんなが集まれる場所にしてはどうかとの提案がなされました。

「ただ集会所を開放するのではなく、みんなで集まって、お茶やお菓子を食ながら話すのが良い」とか、「古仁屋から遊びに来たときに必ず寄りたい」等とプロジェクトは具体化されていきました。

すると日頃から新聞を配りながら、お互いの安否を気遣っている多島さんが、「集会所の鍵は私が借りてきてもいいよ」と意見を言えば、「私もそしたらお茶を飲みに行くよ」とクニ子さん。

このような活発な意見のやりとりを経て、集会所の利用をプロジェクトの柱とすることで意見が一致し、この話し合いの後に、早速始めようとの機運が盛り上がりました。

また、「あしやげの前の旧集会所は集落の中心地であり、海も良く見えて涼しかった」との意見が出ると、皆さん当時のことを思い出し、将来はあそこで「夕涼み」をしたいとの将来構想までまとまりました。



昔、ゲートボールで勝ち取った優勝トロフィー
(阿多地チームは常に上位だった)

寄合いに参加した私の感想

寄合いに参加された皆さんの感想と、私がやってもよい取組として挙げられた意見を紹介いたします。

代表的な感想

- ・ 皆様の話を伺って、自分も話をすることができ、すっきりした気持ちになりました。楽しかったです。
- ・ 一人一人の現状、これからどういうことをしたいんだという、それぞれの考え方が分かり、大変良い話し合いだった。
- ・ この先集落が進んでいく道、目標設定が分かってきた。
- ・ 改まって話すことなく、気取らず話すことができました。身近に感じました。
- ・ 色々とお聞きして参考になりました。これからもこういった寄合いがあると良いです。



力を合わせて作成した阿多地集落内の地図

この取組なら私がやります!!!

《河川清掃・伐採作業等》

若者を集めての草刈りや伐採作業のための連絡と、実際の作業を実施します。

高齢者ばかりなので、若い人が来られた時に、お茶、お漬物持参します。

《他出者との仲介役》

集落の代表として他出者と連絡を取り合い、共通の目的を持ちたい。

《きゅら浜阿多地楽しみ会》

古仁屋・名瀬から来られる方と会って楽しむために、集会所で、皆で集まり、うどんや漬物を作って皆様に提供したい。

鹿児島大学 山田先生の講評

山田誠先生は鹿児島大学で、地域総合政策の分野を研究されており、奄美大島でサテライト教室を開講するなど、地域振興プロジェクトを各地で指導されております。先生の寄合い後の講評です。

今日、2つのグループのお話を伺って、皆さんはこの集落で、どう格好良く生きていくのか、高齢になってもみなさんがあまりしょぼんとしないで、明日何があるか、何をしようかということ、一つ一つ発見していくことが出来たのではないかと思います。内部のここにいる人の力だけだとやれることがすごく小さいですけど、他出している人の力を少し合わせるとすごく大きなものがあって、色んなことが出来るのではないかと、思いました。

今日参加していただいた他出者の方に積極的に協力いただけそうなので、古仁屋の方や名瀬の方がお互いに連絡して、関西の方にも連絡を取り合うことが出来ます。そして、高齢者の方には縁遠いインターネットやデジカメなどを使って、遠くにいる皆さんにもパッとお知らせできる時代になってきています。新しい時代をうまく利用すると高齢者ばかりの集落になっても、元気に面白く楽しくやれる、といったことを発見されたのではないかと思います。

これからこの集落でどんな風に新しい試みがなされるのか期待していますので、どうぞ皆さん頑張ってください。



寄合い終了後に講評される山田先生